

# 中国街道・城内ウォーキングマップ

## ～ 中国街道・尼崎港線廃線跡コース～

〔モデルコース〕開明庁舎～櫻井神社～契沖の碑～尼崎城碑～尼崎港駅跡～深正院～大物崩れ戦跡碑～大物跨線橋跡～海臨寺跡・金楽寺駅跡～長洲天満宮～中国街道の道標～長洲貴布禰神社～旧街道筋の町並み～稲川橋跡～大物川緑地公園（阪神電鉄大物駅）  
約3.2km、1時間30分（建物の内部や施設内を見学しない場合）

**中国街道** 大坂から神崎の渡しを経て尼崎城下町を通り、西宮に至る街道。京都と西国を結ぶ西国街道と、西宮で合流していた。西宮は幕府指定の宿駅と定められ、中国街道途中の神崎と尼崎は尼崎藩独自の宿駅であった。また神崎を経るルートのほか、大坂から大和田を経て辰巳の渡しより尼崎城下に入る道筋もあり、こちらも往来が盛んであったと伝えられている。

**尼崎港線** 明治24年（1891）、尼崎町と伊丹町を結ぶ川辺馬車鉄道が開通。以後、摂津鉄道、阪鶴鉄道を経て明治40年に国有化され、国鉄福知山線の尼崎支線となった。昭和24年（1949）南城内の尼崎駅が尼崎港駅に、神崎駅が尼崎駅に改称。尼崎支線は通称「尼崎港線」と呼ばれるようになる。この間大正元年（1912）に金楽寺駅を開設。乗降客の減少から昭和56年に旅客運行を廃止し、同59年には貨物も廃止され、尼崎港線は廃線となった。



阪神大物駅の北西、**尼崎港線跡**近くに立つ**大物崩れ戦跡碑**は、室町幕府の有力者・細川高国が敗れ自害した享禄4年（1531）の戦いにちなんだもの。北上し、かつて国道2号が線路を跨いでいた**大物跨線橋跡**を過ぎてさらに歩を進めると、左手に**海臨寺跡**の祠、その西側裏手に**金楽寺駅跡**。右手には菅原道真を祭る**長洲天満宮**。一筋北を東進すると公園内に**中国街道の道標**（写真左）が立つ。道を南に取り途中東に入ると**長洲貴布禰神社**がある。尼崎城下の総氏神である西本町貴布禰神社の元宮とも言われる。ふたたび中国街道の道筋に戻り、**旧街道筋の面影を残す町並み**を通り過ぎると、国道2号の**稲川橋**交差点に至る。ここではかつての稲川が地下道に姿を変えるも、地上には「いながわばし」と刻まれた親柱が残る（写真右）。



**開明庁舎** 昭和12年（1937）竣工のモダニズム建築。登録文化財。開明中公園の西側の塀には戦争中の機銃掃射跡が残る。



**金楽寺駅** 昭和44年（1969）、片岡敏男氏撮影（尼崎市立地域研究史料館所蔵写真）。



**尼崎港駅（旧尼崎駅）** 昭和50年（1975）、尼崎市立地域研究史料館撮影（同館所蔵写真）。



**櫻井神社** 尼崎藩主櫻井松平家の代々を祭る。境内には尼崎城天守の棟板瓦や、藩主忠告の句を刻んだ石碑が残る。後者は明城小学校の南西に立つ**尼崎城碑**と同じく、かつて尼崎城の濠にかかっていた橋の石柱を転用したもの。



**契沖の碑** 藩士の子として尼崎に生まれた国学者・契沖を顕彰する生誕地の碑が、市立中央図書館の南に立つ。



**深正院** 正徳元年（1711）に尼崎に入封した尼崎藩主櫻井松平家が、みずからの菩提寺として建立。松平家一族や藩士の墓がある。浄土宗・知恩院末。



**大物川緑地公園** 昭和40年代、地盤沈下の影響で自然流下なくなり、汚染が拡大した大物川を埋め立てて造成された約6kmに及ぶ緑地帯。能舞台も設けられ、毎年薪能が催されるなど、市民の憩いの場となっている。

このマップは、平成22年（2010）3月7日に実施した歴史ウォーク（市民運動中央地区推進協議会、中国街道・城内まちづくり懇話会、サロン・ド・サモン主催）の成果をもとに作成しました。

マップ作成：サロン・ド・サモン 作成協力：松下正和氏（神戸大学大学院人文学研究科特命講師）、(株)クバプロ

このマップに関するお問い合わせ先：尼崎市中央地域振興センター（開明庁舎内、TEL06-6413-5371）